

丹後国分寺

丹後国分寺は、聖武天皇（701～756）の治世下で各地に建立された寺院の一つとして 741 年に創建されました。国分寺とは中央政権が地方を治め、仏教の影響を広げることがを目的としています。丹後国分寺の建物についてわかっていることは少ないですが、本尊は銅製の観音菩薩像であった可能性があり、この像は現在、大阪府の正木美術館に展示されています。

鎌倉時代（1185－1333 年）には律宗の勢力が全国的に衰退し、国分寺の荒廃が進みました。その後、1334 年に再建されたものの 1542 年に戦火で焼失しています。1683 年には洪水被害を受け、別の場所に移転されました。雪舟等楊（1420-1506）による有名な「天橋立図」には、金堂や五重塔など 16 世紀初頭の丹後国分寺の景観が描かれています。

観音菩薩像を除き、寺の遺構はほとんど残っていません。京都府立丹後郷土資料館には屋根瓦が 2 枚展示されているほか、礎石の一部を目にすることができます。この礎石は 1334 年の再建時の遺構とみられていますが、741 年創建時のものである可能性もあります。

ここまでお越しになられた方は、博物館の向かいにある 19 世紀半ばの旧宮津藩庄屋宅「旧永島家住宅」にも足を伸ばしてみることもお勧めします。